

タイトル	The Tunnel				
著者（文・絵）	Anthony Browne				
出版年	1989	出版社	Walker Books		
翻訳版	なし				
総語数	494 語	ページ数	32 ページ	YL レベル	1.3
あらすじ					
性格も興味も正反対の兄妹の物語です。妹は本好きで夢見がちな物静かな女の子。兄はサッカーなど友達と外遊びが好きな男の子。暗闇を怖がる妹の部屋に夜中に忍び込んで脅かし怖がらせるようなやんちゃさで、一緒にいるといつも口喧嘩になってしまいます。 ある日、そんな子どもたちに痺れを切らしたお母さんに「ふたりとも外に行きなさい!」と叱られ、しぶしぶ一緒に外へ出かけます。お兄ちゃんが妹を遊びに連れて行った場所でも喧嘩になります。そのうち、小さなトンネルを見つけたお兄ちゃんは、どんどん中に入って行ってしまいます。ひとり残された妹は、お兄ちゃんが戻ってくるのを待ち続けますが、お兄ちゃんは戻って来ません。暗いトンネルなど入りたくありませんが、ひとりで待つのも怖い妹は、嫌々トンネルに這い入ります。そのトンネルを抜けると暗い森が広がっています。森の木々には怖い動物たちが潜んでいて思わず走って逃げますが、もうこれ以上走れないと思ったその時に、木々が切り拓かれた場所に着きました。そこで目にしたのは、石になったお兄ちゃん! ふたりは無事にお家に戻ることができるのでしょうか。					
紹介					
子ども向けの絵本に描かれる家族は、大抵明るく幸せなものが多いでしょう。しかし、この兄妹関係はユーモアに満ちていて子どもたちが感情移入しやすいものです。洋の東西を問わず、年長の子は、年下の妹弟を連れて遊びに行くのが嫌なようです。年下の子も、年上の子どものたちの遊びについてゆけずにつまらなくなり、ぐずつくのが常です。それが男の子と女の子、性格や興味が正反対だと、なおさら喧嘩になってしまうでしょう。 この絵本では、ふたりの異なる個性がイラストの細部で視覚的に表されています。例えば、夢見がちな妹の背景にはウィリアム・モリス風の壁紙が（イギリスの中産階級を連想させます）、やんちゃな兄の背景には赤レンガ（イギリスでは赤レンガはしばしば二流と揶揄され労働者階級を連想させます）や荒廃した町の風景が配置されています。このような異なる社会階層のモチーフは、ブランの他の作品 <i>Voices in the Park</i> でも見受けられます（<i>Voices in the Park</i> 紹介ページを参照）。 特筆すべきは、細密なイラストです。その細部には、さまざまな「仕掛け」が潜んでいます。トンネルを抜けた先で、森を走りぬける妹は赤ずきんちゃんへのオマージュを思わ					

せるフード付きの赤いコートを着ていますし、パンくずをついばむ小鳥、キコリの置いていった斧、豆の木、木の梢から垂れ下がる縄、森の奥の小さな家、森の木々には隠し絵のごとく恐ろしい動物が潜んでいます。西洋の昔話や寓話を知っている大人の方が、子どもよりもこれらが何を象徴しているのか知的に探求することができます。昔話に潜む冒険の恐怖感と高揚感、教訓などが引用されており、ブラウン独自の物語が紡ぎだされています。

この絵本の初めと終わりの左右扉ページには、モリス風壁紙、赤レンガ壁が別々に配されています。壁の前に置かれた本とサッカーボールの位置にも注目ください。内と外、静と動、ジェンダー、社会階層など、相対化されたイメージを考察できるでしょう（絵本における左右ページの使い方については、*Come Away from the Water, Shirley* 紹介ページを、社会階層については *Voices in the Park* 紹介ページを参照）。

指導ポイント・授業活用例・学生の声など

【文法事項】

～ing を伴う副詞句(付帯状況)

The sister stayed inside on her own, reading and dreaming.

妹はずっと本を読んで空想しながら一人で家にいた。

※ 妹は漫然と家にいたのではなく、本を読んで空想していたことを示すために～ing の句をコンマ(,)の後につける形で置く。

過去形+現在形

They went to a piece of waste ground.

“Why did you have to come?” he moaned. “It’s not my fault,” she said.

【授業活用例】

授業では、書画カメラを使用して教員が読み聞かせします。話の展開部で一度止め、妹がトンネルに這い入った後に何が起こるのか各自で想像し、ペアかグループで続きを推測します（アクティビティーの「予測」を参照）。その後に、書画カメラを用いた教員の読み聞かせを続けます。さらに、小グループで音読し、各ページのイラストをじっくりと「読み解く」時間をとります。以下がイラストの読み解きポイントになるでしょう。この活動を通して、物語のテーマとなるものを探ります。小グループでの意見交換後、発見したことをクラス全体に発表します。

- ① 引用されている物語や登場人物（「間テキスト性」については、*The Lost Thing* 紹介ページ参照）
- ② 登場人物の心理状態と色の効果
- ③ ページ内、あるいは左右見開きページにおける複数イラストの対比

④ テキスト分析（地と台詞、登場人物の台詞量/氏名と代名詞など）

【その他、応用活動】

- ① グループごとに、少女が森の中をさ迷う場面にバックグラウンド・ミュージックを選び、内面のことば、あるいは独り言を考えます。書画カメラを用いイラストをスクリーンに写し、音楽、台詞を加えて声優のように声で演じます。グループごとの異なる表現を楽しめます。教員あるいは他グループのメンバーから講評します。
- ② ブックレポートを書く。（例）物語の「核」とは。子どもにとって、「森」「トンネル（洞窟）」とは何を象徴するか（「トンネル」は *Badger's Parting Gifts* にも出てきます）。
- ③ 作者による他作品 *Into the Forest* との読み比べ。「間テキスト性」に注目。

関連作品・参考 URL

アンソニー・ブラウンは 1976 年にデビューしました。ケイト・グリーナウェイ賞を 2 回、国際アンデルセン賞を受賞したポストモダン絵本の旗手と称されています。本作では、以下の物語がイラストの形で引用されています。*Little Red Riding Hood, Jack and Bean Stalk, Sleeping Beauty, Hänsel und Gretel*. ブラウンの人気作品、*Into the Forest* でも、これらの物語はイラスト・モチーフとして使われています。両作を読み比べてみると大変興味深く、ディスカッションも活性化されます。

ブラウン自身が開設するサイトがありますので、そちらもご覧ください。

Anthony Browne Books <http://www.anthonybrownebooks.com/>

（文責：草薙優加）